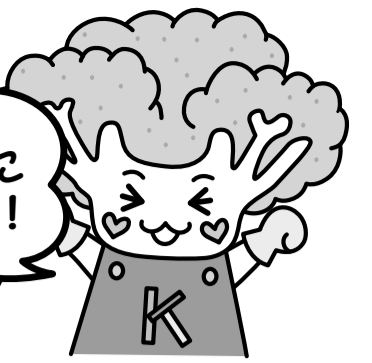


営農だより

中干しは田植え
1ヶ月後を目安に
行いましょう!!



5・6月のポイント～10の推進技術・5つの1ヶ月対策～

- 中干し・溝切りは、田植え1ヶ月後から実施
- 中干しの期間は、1ヶ月
- 畦畔・農道等の除草は5～6月にかけて実施し、7月上旬までに追加除草

生産履歴記録簿を記帳しましょう！

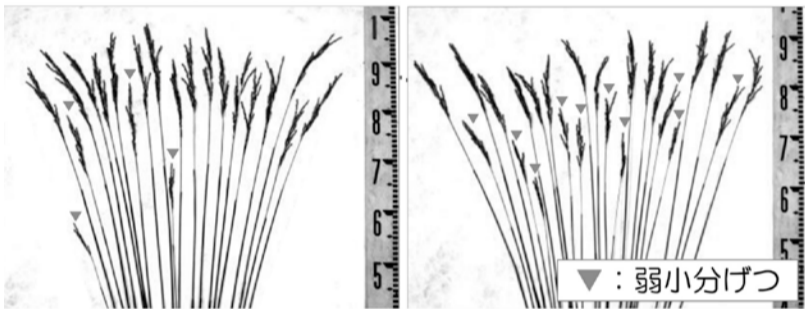
中干しは遅れずに開始しましょう！

■中干しの効果は？

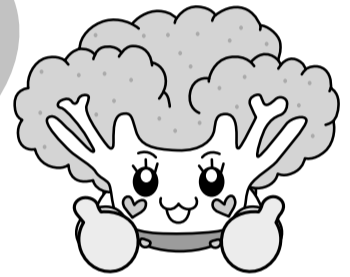
- ①後発分げつの発生を抑制し、過繁茂を防ぐ。
- ②倒伏しない稲をつくるために、下位節間を伸ばさないようにする。
- ③健全な苗の生育のため、根元に酸素を入れて根張りを良くする。

○中干し管理徹底
(穂揃いが良い)

×中干し管理不徹底
(穂揃いが悪い)



ガス沸き注意!
田干しを2～3回
行いましょう!

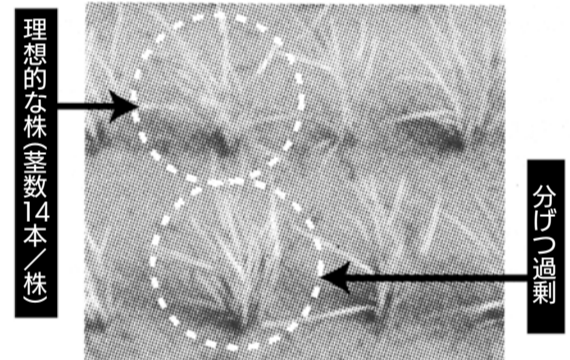


■中干し開始の目安

田植え1ヶ月後

●1株の茎数の目安

	1株あたり茎数	開始の目安	中干し期間
ゆめみづほ	15～16本	5月末	～6/30
コシヒカリ	13～14本	6月初旬	～7/5
ひやくまん穀	13～15本	6月上旬	～7/10

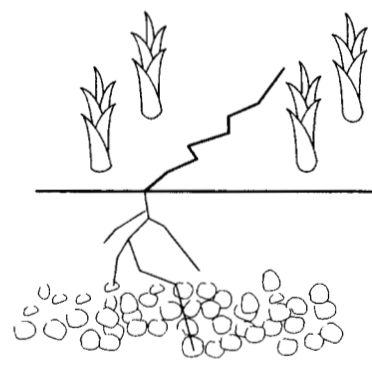
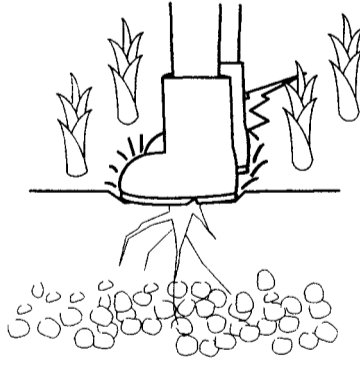
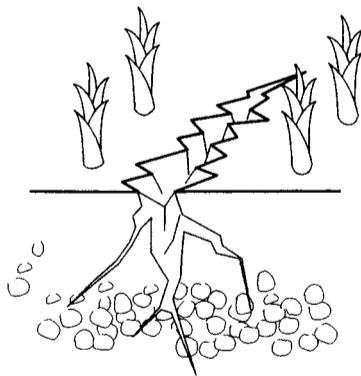


《中干しの程度》 圃場条件に合わせて適度の中干しを行うこと。

湿田には強いヒビを入れる

半湿田には足がしずむ程度

乾田では弱いヒビを入れる



■溝切りの方法

- 3日程度田干しして、土をかため、3～5mに1本程度の割合で溝を切る。
- 水がスムーズに流れるように連結部分をつなぐ。

※田んぼの排水が良くなり、容易に中干しを行うことができます。
また、中干し後から刈り取り前までの通水がスムーズに行えます。

葉いもち予防

葉いもちの発生に注意

補植苗除去

補植苗はいもち病の発生源となることから早急に処分する。

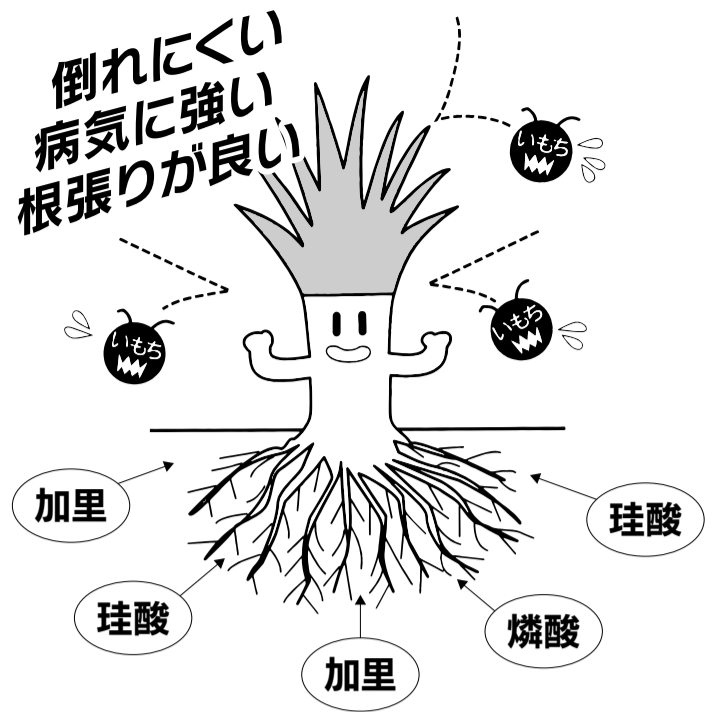
5月31日(月)～6月6日(日)は溝切りウィーク

PKけいさんの施用

～根の活力を高めよう～

肥料名	施用量	施用時期	その他保証成分
PKけいさん (0-13-11)	30kg/10a	6月中旬	苦土 4% 珪酸 17% ほう素 0.05%

- ◎根の活力向上と健全化、いもち病への抵抗力が促進される。
- ◎加賀の土壌で不足している磷酸と珪酸が補給できる。
- ◎一発肥料施用の場合には特に、磷酸・加里の補充につながる。



雑草防除

○残った雑草処理

処理場面	薬剤名	使用時期	使用回数	散布量 (10a当り)	特徴および注意事項
ノビエと 広葉雑草の 同時防除	ワイドショット1キロ粒剤	移植後15日～ノビエ4葉期まで (但し、収穫45日前まで)	1回	1kg	湛水散布 クログワイに効果がある
	アクシズMX1キロ粒剤	移植後7日～ノビエ4葉期まで (但し、収穫45日前まで)	1回	1kg	湛水散布 オモダカに効果がある
	アトカラSジャンボMX	移植後14日～ノビエ3.5葉期まで (但し、収穫45日前まで)	1回	小包装(パック) 20個(500g)	湛水散布 小包装のまま投げ入れる
	フルチャージジャンボ	移植後5日～ノビエ4葉期まで (但し、収穫45日前まで)	1回	小包装(パック) 10個(500g)	湛水散布 小包装のまま投げ入れる
ノビエの 取りこぼし	ヒエクリーン	移植後15日～ノビエ4葉期まで (但し、収穫45日前まで)	1回	1キロ粒剤: 1kg 豆つぶ: 250g	湛水散布
	トドメMF	移植後14日～ノビエ5葉期まで (但し、収穫50日前まで) 移植後14日～ノビエ7葉期まで (但し、収穫50日前まで)	1回	1キロ粒剤: 1kg 乳剤: 200ml	湛水散布 湛水散布または落水散布
広葉雑草が 多いとき	ハサグラン粒剤	移植後15日～50日 (但し、収穫60日前まで)	1回	3kg	落水散布 又はごく浅く湛水して散布

※上記の除草剤は直播にも使用できます。(使用期間についてはラベルを参照下さい。)
※環境問題、薬剤の効果を高めるため、除草剤の散布後3日間は湛水状態を保ち、7日間は強制落水はしないこと。

○表層はく離、藻類発生時に散布 (藻が発生している圃場では除草剤の効果は劣ることがあります。)

処理場面	薬剤名	使用時期	使用回数	散布量 (10a当り)	特徴および注意事項
藻類(アオミドロ) による表層はく離	モゲトン粒剤	発生始～発生盛期 (但し、収穫45日前まで)	3回以内	3kg	湛水散布



畦畔および休耕田の除草の徹底

特徴の異なる2つの除草剤を混用散布することによって畦畔雑草管理の省力化が図れます

薬剤名	希釈倍率	散布量 (10a当たり)	使用薬量 (10a当たり)	使用回数	使用時期	備考
バスタ液剤	100倍	100ℓ	1,000ml	水田畦畔 2回以内 休耕田 3回以内	水田畦畔では 収穫7日前まで	
ラウンドアップ マックスロード	100倍	100ℓ	1,000ml	ラウンドアップマックスロード・ タッチダウンiQの使用回数は 合わせて2回以内 となります	水田畦畔では 収穫前日まで	
タッチダウンiQ	100倍	100ℓ	1,000ml		水田畦畔では 収穫14日前まで	
+						
ダイロンゾル (※上記の薬剤との混用になります。)	400～ 500倍	100ℓ	200～250ml	1回	雑草発生前～ 生育初期(草丈15cm以下)	生えている雑草には 効果は劣ります (全面土壌散布)

カメムシの防除の徹底

※カメムシの生息密度を低下させることが最大のポイントです。

- ①越冬成虫の産卵時期である5月下旬に農道・畦畔等を除草し産卵場所をなくす。
- ②幼虫期間である6月中は、雑草が伸びないように除草を徹底する。
- ③7月10日以降に除草を行うとカメムシを圃場内へ追い込むことになるのでその前に一斉除草を行う。
- ④集落ぐるみで一斉に除草・防除を実施することが効果的。

